

軟体類

* 外来種の記載があります

No

1

	生物名	タマキビ
	分類	軟体動物門腹足綱 タマキビ科
	発見頻度	★★★★☆
	職員のコメント	岩の表面についた藻類などを食べます。
	備考	

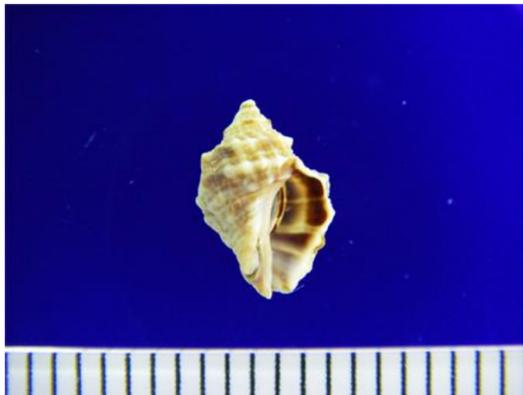
No

2

	生物名	シマメノウフネガイ
	分類	軟体動物門腹足綱 カリバガサ科
	発見頻度	★★★★☆
	職員のコメント	貝殻が楕円形です。他の貝類の殻や岩などに付いています。カリフォルニア～パナマにかけてが原産の貝です。
	備考	外来種

No

3

	生物名	イボニシ
	分類	軟体動物門腹足綱 新腹足目アッキガイ科
	発見頻度	★★★★★
	職員のコメント	岩礁に生息します。
	備考	

No

4

	生物名	アラムシロ
	分類	軟体動物門腹足綱 新腹足目オリイレヨフバイ科
	発見頻度	★★★★★
	職員のコメント	干潟の掃除屋(腐肉食者)です。
	備考	

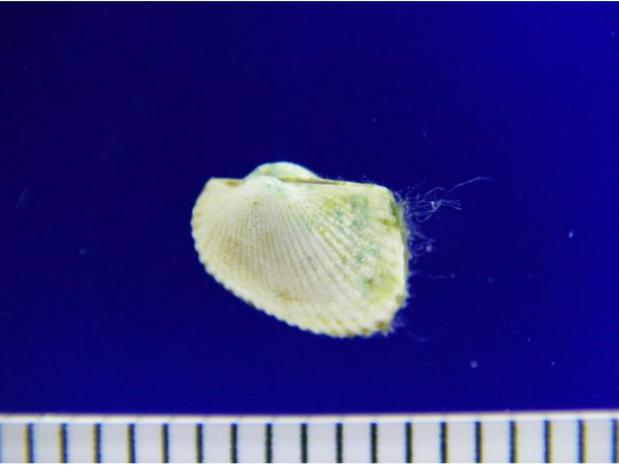
No

5

	生物名	カラマツガイ
	分類	軟体動物門腹足綱 柄眼目カラマツガイ科
	発見頻度	★☆☆☆☆
	職員のコメント	潮干帯の岩礁に見られますが東京湾では滅多にいません。
	備考	

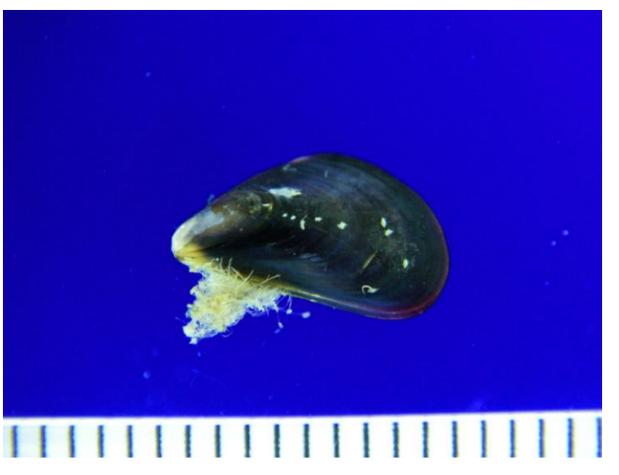
No

6

	生物名	サルボウ
	分類	軟体動物門二枚貝綱 フネガイ目フネガイ科
	発見頻度	★★★★☆
	職員のコメント	成長するに従い砂泥地にもぐり込みます。成貝は5-6cmになります。食用。
	備考	

No

7

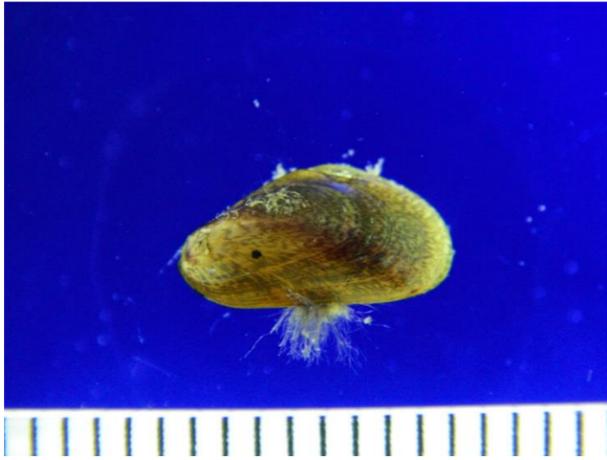
	生物名	ムラサキイガイ
	分類	軟体動物門二枚貝綱 イガイ目イガイ科
	発見頻度	★★★★☆
	職員のコメント	食用貝(ムール貝)として有名です。自分で糸を出し岩や岸壁、船体の凹み部などにくっつきます。ヨーロッパ原産の貝です。
	備考	外来種

No

8

	生物名	ミドリイガイ
	分類	軟体動物門二枚貝綱 イガイ目イガイ科
	発見頻度	★★★★☆
	職員のコメント	東南アジア原産の貝です。ムラサキイガイより深い場所に住んでいます。
	備考	外来種

No 9

	生物名	コウロエンカワヒバリガイ
	分類	軟体動物門二枚貝綱 イガイ目イガイ科
	発見頻度	★★★★☆
	職員のコメント	成長すると殻は一様に褐色になります。 オーストラリア原産の貝です。
	備考	外来種

No 10

	生物名	ホトギスガイ
	分類	軟体動物門二枚貝綱 イガイ目イガイ科
	発見頻度	★★☆☆☆
	職員のコメント	集団で絡まっていることがよくあります。 ホトギス(鳥)の羽に似た緑色と褐色の しま模様が特徴です。
	備考	

No 11

	生物名	マガキ
	分類	軟体動物門二枚貝綱 カキ目イタボガキ科
	発見頻度	★★★★★
	職員のコメント	石や岩によく付着しています。殻の端は ナイフのように鋭いので注意。食用にさ れるカキです。
	備考	

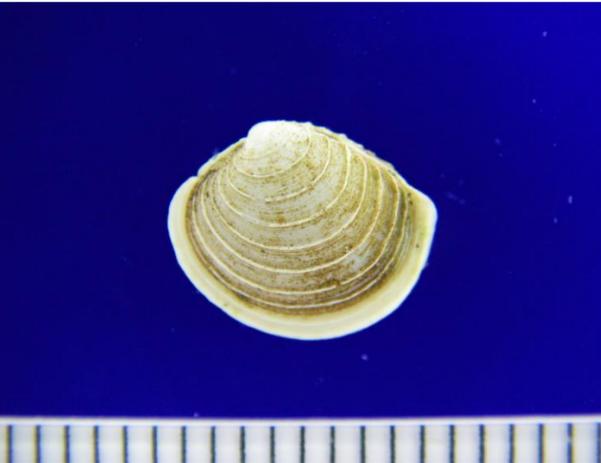
No 12

	生物名	イガイダマシ
	分類	軟体動物門二枚貝綱 マルスダレガイ目カワホトギス科
	発見頻度	★★☆☆☆
	職員のコメント	殻が横長の三角形です。カリブ海・メキシ コ湾原産です。
	備考	外来種

No 13

	生物名	ウネナシトマヤガイ
	分類	軟体動物門二枚貝綱 マルスダレガイ目フナガタガイ科
	発見頻度	★☆☆☆☆
	職員のコメント	マガキの表面や隙間に生息しています。 白い殻の長い楕円形です。
	備考	

No 14

	生物名	ホンビノスガイ
	分類	軟体動物門二枚貝綱 マルスダレガイ目マルスダレガイ科
	発見頻度	★★★☆☆
	職員のコメント	北アメリカ大西洋岸原産です。食用に されています。
	備考	外来種

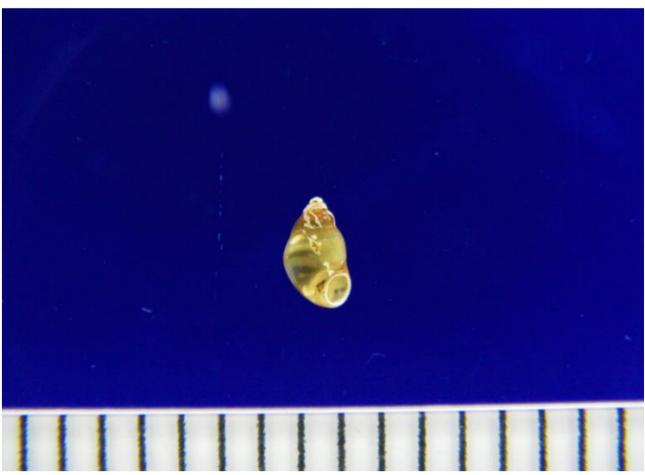
No 15

	生物名	アサリ
	分類	軟体動物門二枚貝綱 マルスダレガイ目マルスダレガイ科
	発見頻度	★★★★★
	職員のコメント	2段目の真ん中を掘ると大量に確認でき ます。
	備考	

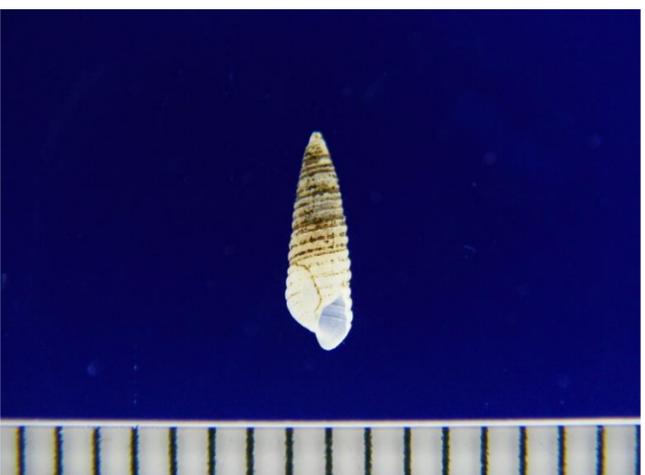
No 16

	生物名	ウスカラシオツガイ
	分類	軟体動物門二枚貝綱 マルスダレガイ目イワホリガイ科
	発見頻度	★☆☆☆☆
	職員のコメント	潮彩の渚では、なかなか見かけることが ありません。
	備考	外来種

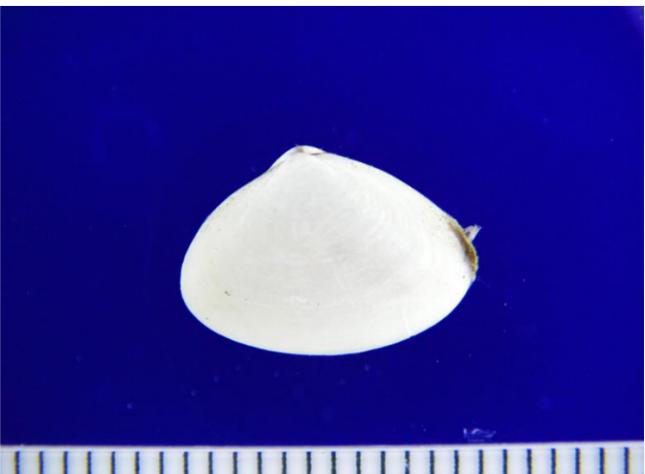
No 17

	生物名	エドガワミズゴマツボ (別名 ウミゴマツボ)
	分類	軟体動物門腹足綱 異旋目ミズゴマツボ科
	発見頻度	★★★★☆
	職員のコメント	小型の貝のため、注意して見ないと、見つけることはできません。
	備考	

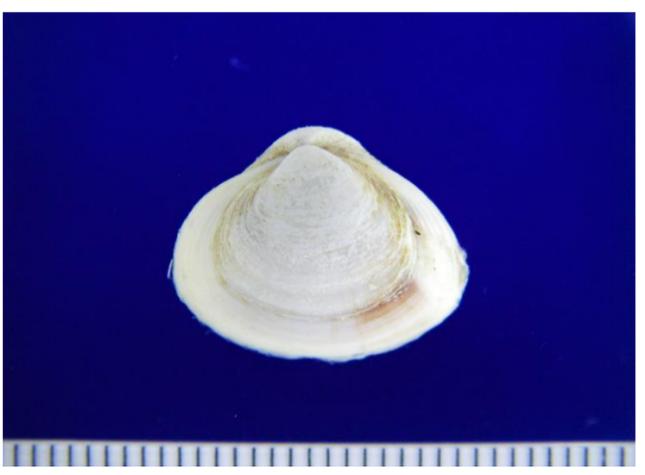
No 18

	生物名	ヨコイトカケギリ
	分類	軟体動物門腹足綱 異旋目トウガタガイ科
	発見頻度	★★★★☆
	職員のコメント	2段目の中央部で確認されています。
	備考	

No 19

	生物名	バカガイ
	分類	軟体動物門二枚貝綱 マルスダレガイ目バカガイ科
	発見頻度	★★★★☆
	職員のコメント	シオフキより平べったい貝です。 殻がなめらかなので、素早く砂に潜ることができます。
	備考	

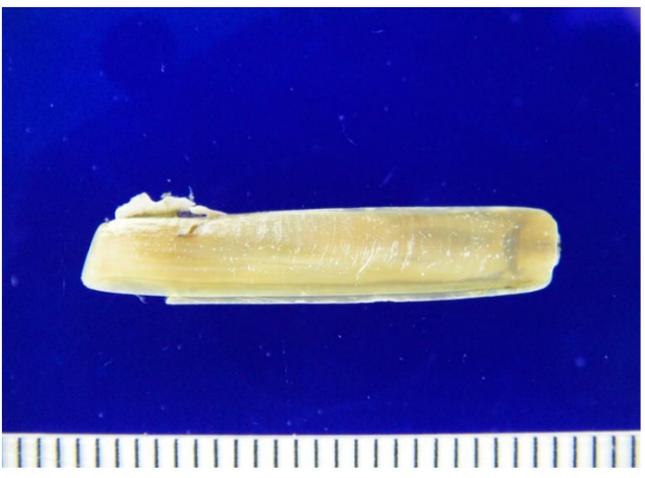
No 20

	生物名	シオフキ
	分類	軟体動物門二枚貝綱 マルスダレガイ目バカガイ科
	発見頻度	★★★★★
	職員のコメント	アサリと同じく、大量に確認されています。
	備考	

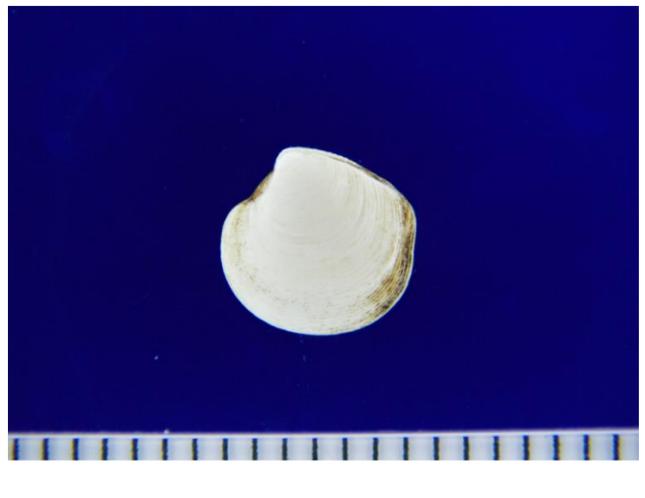
No 21

	生物名	イソシジミ
	分類	軟体動物門二枚貝綱 マルスダレガイ目シオサザナミ科
	発見頻度	★☆☆☆☆
	職員のコメント	1段目を深く掘ると、確認されることがあります。
	備考	

No 22

	生物名	マテガイ
	分類	軟体動物門二枚貝綱 マルスダレガイ目マテガイ科
	発見頻度	★★☆☆☆
	職員のコメント	細長い殻が特徴です。 2段目の庁舎側でよく見かけます。
	備考	

No 23

	生物名	カガミガイ
	分類	軟体動物門二枚貝綱 マルスダレガイ目マルスダレガイ科
	発見頻度	★★☆☆☆
	職員のコメント	形状はホンビノスガイに似ていますが、 殻の輪郭全体の丸みが強いこと、殻の膨らみが弱いことからカガミガイだとわかります。
	備考	

No 24

	生物名	オオノガイ
	分類	軟体動物門二枚貝綱 オオノガイ目オオノガイ科
	発見頻度	★★☆☆☆
	職員のコメント	殻長10cm程度まで成長します。 泥干潟に深く潜って隠れているので、なかなか見つけることができません。
	備考	

No 25

	生物名	フレリトゲアメフラシ
	分類	軟体動物門腹足綱 アメフラシ目アメフラシ科
	発見頻度	★★★★☆
	職員のコメント	冬場に2段目にて良く見かけます。 刺激を与えると紫色の汁を放出します。
	備考	

No 26

	生物名	マダラウミウシ
	分類	軟体動物門腹足綱 裸鰓目クロシタナシウミウシ科
	発見頻度	★★★★☆
	職員のコメント	春から夏にかけて見かけました。 昼間は石の裏で丸まっています。
	備考	クロシタナシウミウシと同種という説があります。

No 27

	生物名	タツナミガイ
	分類	軟体動物門腹足綱 アメフラシ目アメフラシ科
	発見頻度	★★☆☆☆
	職員のコメント	外観はウミウシ類に見えますが、背面に殻を持つアメフラシの仲間です。
	備考	

No 28

	生物名	クロシタナシウミウシ
	分類	軟体動物門腹足綱 裸鰓目クロシタナシウミウシ科
	発見頻度	★★★★☆
	職員のコメント	春先に確認されることがあります。
	備考	マダラウミウシと同種という説がありません。

No 29

	生物名	ツメタガイ
	分類	軟体動物門腹足綱 吸腔目タマガイ科
	発見頻度	★☆☆☆☆
	職員のコメント	今まで1度しか確認されていません。 (2010年2月時点)
	備考	

No 30

	生物名	ソトオリガイ
	分類	軟体動物門二枚貝綱 ウミタケモドキ目オキナガイ科
	発見頻度	★☆☆☆☆
	職員のコメント	殻が非常に薄く、よく膨らむ貝です。
	備考	

No 31

	生物名	ハマグリ
	分類	軟体動物門二枚貝綱 マルスダレガイ目マルスダレガイ科
	発見頻度	★☆☆☆☆
	職員のコメント	栗ににているからハマグリという名が付いたという説があります。
	備考	

No 32

	生物名	アカニシ
	分類	軟体動物門腹足綱 吸腔目アッキガイ科
	発見頻度	★☆☆☆☆
	職員のコメント	大きさはサザエと同じくらいです。 肉食性で、他の貝類を食べます。
	備考	

No 33

	生物名	ケハダヒザラガイ
	分類	軟体動物門多板綱 新ヒザラガイ目ケハダヒザラガイ科
	発見頻度	★☆☆☆☆
	職員のコメント	殻以外の背はピロード状になっていて、そこに9対の束になったトゲがあります。
	備考	

No 34

	生物名	ヒメケハダヒザラガイ
	分類	軟体動物門多板綱 新ヒザラガイ目ケハダヒザラガイ科
	発見頻度	★☆☆☆☆
	職員のコメント	ケハダヒザラガイに似ていますが、殻の巾が広いことで見分けられます。
	備考	